



2026年3月27日
株式会社 ABEJA

各位

ABEJA、NEDO 推進「GENIAC」プロジェクト 第三期事業の終了に伴う成果報告
～ ミッションクリティカル業務に利活用できる LLM と AI エージェントを構築し、
特定業務タスクにおける運用の可能性を確認～



人と AI の協調により「ゆたかな世界を、実装する」株式会社 ABEJA（本社：東京都港区、代表取締役 CEO：岡田 陽介、以下「ABEJA」）は、経済産業省と NEDO が実施する、国内の生成 AI の開発力強化を目的としたプロジェクト「GENIAC（Generative AI Accelerator Challenge）」が進める「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業／競争力ある生成 AI 基盤モデル（GENIAC）※1」（以下「第三期事業」）を終了したことをお知らせいたします。

ABEJA は、第三期事業において、第一期及び第二期※2 で得られた知見を活かし、間違いが許されないミッションクリティカル業務に利活用が可能な LLM 及びそれに基づく AI エージェントの構築を行いました。

また当該研究開発の一環として、SOMPOホールディングス株式会社（以下「SOMPOホールディングス」）及び損害保険ジャパン株式会社（以下「損害保険ジャパン」）と共に、構築した LLM を損害保険業務に適用し、運用の可能性について検証を実施しました。

■ 概要

ABEJA は、「ゆたかな世界を、実装する」を経営理念に掲げ、ミッションクリティカル業務への AI 導入支援のため、基盤システムとなる ABEJA Platform の開発・導入・運用を行う「デジタルプラットフォーム事業」を展開しています。ABEJA は、2012 年の創業時よりディープラーニング、2018 年から LLM、2019 年から量子コンピューティングなどの前衛的研究開発を積極的に行っており、随時、研究開発成果を ABEJA Platform に搭載しております。

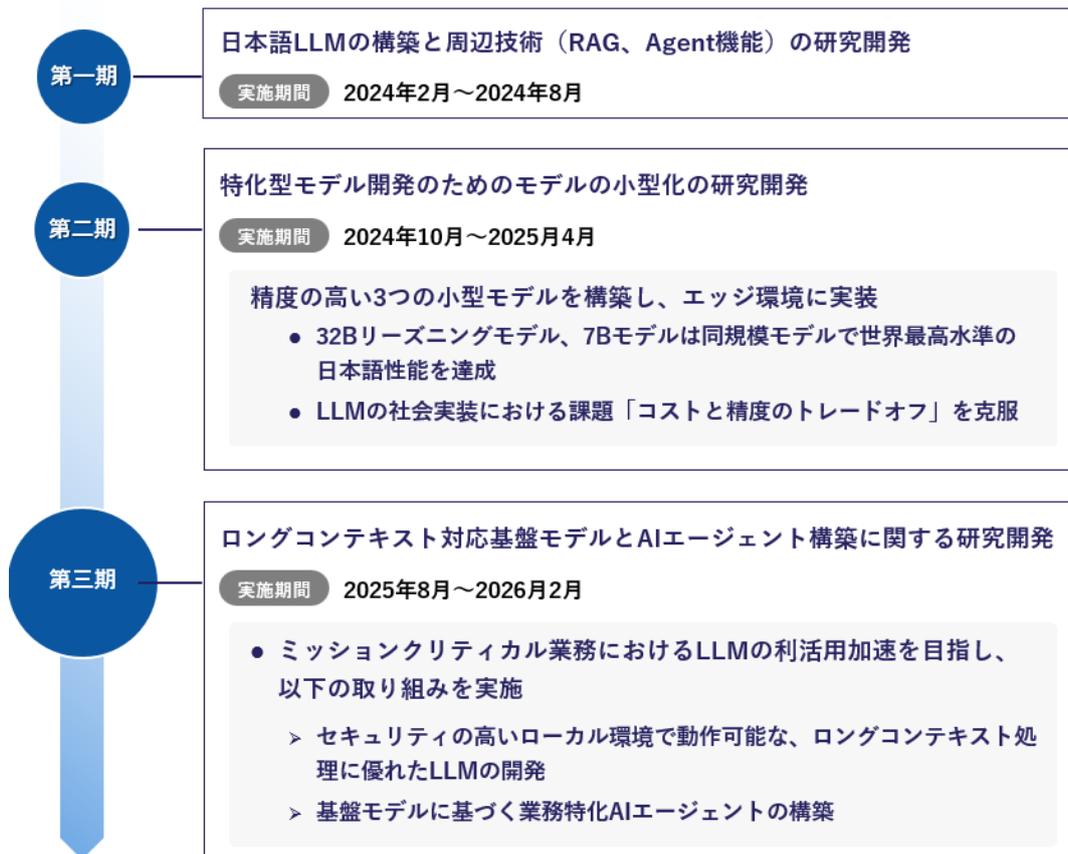
ABEJA は従来より、顧客企業のミッションクリティカル業務に ABEJA Platform を提供してまいりました。性質上、ミッションクリティカル業務は、間違いが許されず、深い専門知識や複雑な対応が求



められることから、LLMの導入に慎重な企業が多い状況にあります。加えて現在多くのエンタープライズ企業にとって高いセキュリティの確保が不可欠であるため、クラウド型の汎用的な LLM の利活用には一定の限界が生じています。

ABEJA は、ミッションクリティカル業務における LLM の適用が、産業構造を変革しようと考えており、第三期事業においては、ミッションクリティカル業務に適用可能な、安心・安全に運用できる LLM と周辺技術の研究開発に取り組みました。

第三期事業 概要



■ 成果

第三期事業における ABEJA の成果は、以下の通りです。

(1) ミッションクリティカル業務に利活用できる小型化 LLM と AI エージェントの構築

ABEJA は、Alibaba 社の Qwen シリーズをベースモデルとして、14B 小型化モデル「ABEJA Qwen3-14B Agentic Model」を開発いたしました。企業のオンプレミス環境で動作する小型化 LLM であるため、機密データを外部に送信する必要はなく、自社の環境で管理・保護することができ、「データ主権（機密データを外部クラウドに出さず、自社の管理下で保持・利用）」を確保した状態で利活用することができます。また当該 LLM は、汎用的な日本語言語能力とロングコンテキスト処理能力を備え、日本語性能においては、GPT-4o、Qwen3-14B の性能を超えております。※3

また当該 LLM の開発に伴い、複雑なタスクを分解・実行する「プランニング」、外部データや情報の選定・実行・反復など行う「ToolUse」等、高度なエージェント能力を備えた AI エージェント基盤も



構築いたしました。これにより、今後、Manus などの汎用的かつ高度なタスクエージェントや OpenClaw などのローカル環境でも動作可能なワークフローなどを、インターネットから隔離された環境で安全に構築することが可能になります。厳格なセキュリティや安定性、リアルタイム性を重視する金融業や製造業などのオンプレミス環境においても、高度な自律型 AI の導入が実現します。

(2) 特定業務タスクにおける運用を実証

ABEJAは、SOMP Oホールディングス及び損害保険ジャパンと共に、当該LLMを実際に損害保険業務における特定業務タスクに適用いたしました。

結果、損害保険という高度な専門性が求められる領域においても、セキュリティ上の安全性を担保した上で、自律的な思考・出力を実行し、実務の支援ツールとしての利活用の可能性を検証しました。

(3) 情報の公開

ABEJAは、NEDOが主催する各企業とのイベント、各種セミナーなどに積極的に参加し、情報を公開するなど両者で社会実装に向けた啓蒙活動を推進いたしました。第三期に関する研究開発において得られたノウハウや評価などの詳細については以下で公開しております。

Hugging Face :

<https://huggingface.co/datasets/abeja/OpenAI-MRCR-Translation-JPN>

<https://huggingface.co/abeja/ABEJA-Qwen3-14B-Agent-256k-v0.1>

ブログ :

<https://tech-blog.abeja.asia/entry/advent-2025-day17>

<https://tech-blog.abeja.asia/entry/geniac3-longcontext-benchmark-pr-202603>

<https://tech-blog.abeja.asia/entry/geniac3-agent-rl-process>

<https://tech-blog.abeja.asia/entry/geniac3-qwen3-agent-model>

ABEJAは、引き続き、ミッションクリティカル業務における LLM の実装を推進し、ABEJA の企業理念である「ゆたかな世界を、実装する」の実現に努めてまいります。

この成果は、NEDO の助成事業の結果得られたものです。

- ※1 ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業／競争力ある生成 AI 基盤モデル (GENIAC) :
https://www.nedo.go.jp/koubo/CD3_100397.html
- ※2 第一期における当社発表及び成果発表は以下よりご確認ください。
<https://www.abejainc.com/news/20240202/1>
<https://www.youtube.com/watch?v=70nYBgBxCdw>
第二期における当社発表及び成果発表は以下よりご確認ください。
<https://www.abejainc.com/news/20241010/1>
<https://www.abejainc.com/news/20250603/1>
- ※3 汎用的言語性能を図る指標「MT-Bench」における主なモデルの総合平均スコア (ABEJA 調べ) :
「ABEJA Qwen3-14B Agent Model」0.9648、「GPT-4o」0.9154、「Qwen3-14B」0.9571

■株式会社 ABEJA について

ABEJAは、「ゆたかな世界を、実装する」を経営理念に掲げ、ミッションクリティカル業務への AI 導入支援のため、基盤システムとなる ABEJA Platform の開発・導入・運用を行う「デジタルプラットフォーム事業」を展開しています。ABEJA Platform は、ミッションクリティカル業務における堅牢で安定した基盤システムとアプリケーション群であり、生成 AI をはじめとする最先端技術による運用が人と AI の協調により実現可能です。ABEJA は、2012 年の創業時より ABEJA Platform の研究開発を



進めており、顧客企業からの信頼のもと、数多くの導入を進めることで「テクノロジーの力で産業構造を変革する」ミッションに取り組んでいます。

本 社：東京都港区三田一丁目 1 番 14 号 Bizflex 麻布十番 2 階

設 立：2012 年 9 月 10 日

代 表：代表取締役 CEO 岡田 陽介

事 業：ミッションクリティカル業務への AI 導入支援のため、基盤システムとなる ABEJA Platform の開発・導入・運用を行う「デジタルプラットフォーム事業」

URL：<https://abejainc.com>